

外来診療のご案内

診療時間	月	火	水	木	金	土日・祝
9:00 ~ 12:00 (受付 8:30~11:30)	渡邊 裕志	渡邊 裕志	渡邊 裕志	成田 渉	今田 元	休診
午後	休診					

新患を含め、外来リハビリをご希望の方は**完全予約制**です。  
事前にお問い合わせください。



予約・お問い合わせ **022-351-8118**

[受付時間] 9:00 ~ 17:00 (月~金)

編集後記

お正月気分が抜け、ようやく仕事モードを取り戻してきました。

前号で“作業療法士による就労支援”について取り上げたところ、なんと、ある機関の方より「詳しく教えてほしい」とお問い合わせをいただきました！ありがとうございます。反響があるとこんなに嬉しいものですね。さらに良い内容にしていきたいので、ご意見・ご感想お待ちしております。

ウサギのように飛躍できる1年になりますように🐰  
本年もよろしくお願いいたします。

地域医療連携室 大川



病棟も華やかに新年を迎えました

医療法人社団脳健会  
仙台リハビリテーション病院  
地域医療連携室

〒981-3341 宮城県富谷市成田1-3-1  
Tel: 022-351-8118 (代表) 022-346-8497 (直通)  
Fax: 022-351-8126  
ホームページ: <http://www.sendai-reha.or.jp>



仙台リハビリテーション病院  
ホームページ

【関連病院】  
仙台東脳神経外科病院

〒983-0821  
宮城県仙台市宮城野区岩切1丁目12-1  
Tel: 022-255-7117 Fax: 022-255-7760



Link!

TAKE FREE

2023.1 Vol.21



Topics 公共交通機関の利用について

Notice 歩行の再建を目指して

就労支援について

こんにちは。当院にきて3年目の鈴木文歌と申します。先日2022年日本リハビリテーション医学会東北地方会生涯教育研修会で当院の脳疾患後の就労支援について発表してきました。院長先生をはじめ各部署の皆様にもいろいろと教えていただきながら発表内容を作成しましたので、その内容をご報告します。

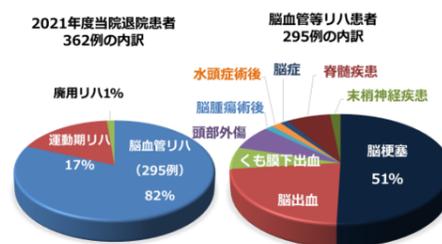
就業能力に対する直接的影響（身体障害・高次脳機能障害）が大きく身の回りの日常生活が自立しても就労が難しい症例が多い点で脳疾患患者さんの復職の難しさがあります。入院中は活動範囲も限られており、周りに手伝ってもらうことが多いため生活障害は目立ちにくいと言われています。退院後の生活の中で行動範囲を広げながら、病気や障害のことを一定程度受け止めて情緒的にも安定して他者とやりとりできることが復職の準備を始める目安になります。入院中の医療リハビリの介入だけでは生活期や社会生活に広げるところの支援が困難で、退院後の生活支援をしながら就労準備をしていくことが必要になります。当院では必要な方には退院後の外来支援につなげています。

また、復職に際しては患者さんがかかえている障害を企業側に知ってもらう必要があるため、職場への情報提供なども行っています。

2021年度に当院を退院した362名についての就労支援の実態を調査しました。脳疾患患者数は269名で（図1）、そのうち24%の64名が入院時に就労希望がありました。5名は入院中に復職を断念、入院中のみの支援で復職可能と判断したのは20%の13名のみで、残りは退院後の継続フォローが必要でした（図2）。当院で外来支援を継続した38名の転機を図3に示します。発症18か月以内に職業復帰したのが44%、支援継続中の10名のうち、半分の5名が就労支援事業所や障害者職業センターなどの行政機関を利用しています。退院後、外来で訓練や評価を行いながらどの時期にどう次のステップに進むかを本人、家族を含めた多職種チームで相談しながら決定しています。入院中だけでなく退院後の生活支援を行いながら就労支援を行っているところが当院の特徴です。

医師 鈴木 文歌

図1 2021年度当院退院患者362例 内訳



当院は入院患者の8割以上が脳血管疾患患者である。脊髄疾患、末梢神経疾患を除いた脳血管疾患患者269名について調査した。

図2 退院後の支援詳細

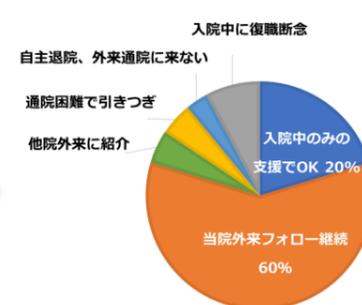
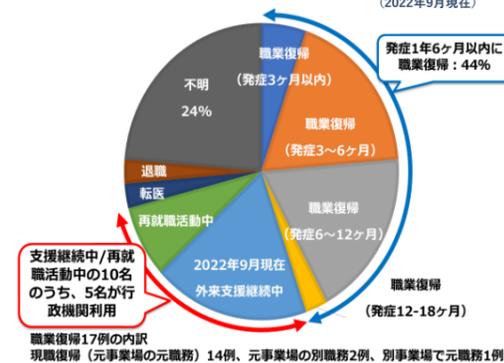


図3 当院外来で支援継続した38例の転機 (2022年9月現在)



## 公共交通機関の利用について

入院患者様の退院先は都市部とは限らず、徒歩のみでの移動手段では生活が成り立たない場合も少なくありません。そのような際には、患者様の身体状況に基づき、安全性や社会性、患者様の有益性の観点から、屋外における移動手段（公共交通機関）を検討しています。特に、検討では、患者様を含むチーム（医師、看護師、相談員、セラピストなど）で熟考することを心がけています。

あくまでも居住する地域特性に左右されますが、一例をご紹介します。

公共交通機関の利用では、「時間」「経路」「利用手順」「金銭」「屋外における応用的な移動（エスカレーターなど）」を中心に、実場面でチェックします。その後、必要に応じた助言や提案を行っています。

現在（2023年1月時点）は、コロナ禍の影響から十分な支援が行えておりませんが、再開できる日を望んでいます。

リハビリテーション部副部長 理学療法士 川上真吾



時間と経路の確認



手順と金銭の管理



屋外での応用的な移動

## 歩行の再建を目指して

下肢に力の入らない方々に装具を装着し、血圧や脈の管理を行いながら入院後すぐに歩行練習を開始します

### 体重免荷装置



転倒を防ぎながら、体重を機器で免荷し、歩行練習を実施します

理学療法では、主に在宅生活や社会生活を営む上で基本となる動作、特に移動手段の獲得を命題に、歩行動作の再建を目指し日々のリハビリを実施しております。脳卒中や脊髄障害により下肢に麻痺をきたした方、骨折の方や内科・外科疾患によりベッド上の生活を余儀なくされ下肢の筋力が低下した方などを対象に歩行の再建を図っております。

リハビリ開始時には、歩行をすることはもちろんのこと、立つことも難しい状態の場合が多く、様々な特殊機器を使用することや、一人の方に対しセラピスト2～3人で支えながら歩行練習を実施することもあります。再び自身の足で歩けるように、対象者の方と共に悩み、互いに汗をかきながらリハビリを行っております。

リハビリテーション部主任  
理学療法士 菊池 隼

装具

## 仙リハ コラム

～栄養室より～

## 『フレイル列車』から 今すぐ下車しましょう！

昨今、よく耳にする「フレイル」について、管理栄養士の視点からお話します。

フレイルは、些細なきっかけにより社会とのつながりを失うことで表題の「フレイル列車」に乗車するがごとく、どんどん揺られて、心の健康、口腔機能、栄養状態、身体機能までも低下をきたし、健康な状態から介護が必要な状態への重症化路線に突入していきます。

筋肉量の維持のために最も重要な栄養素は「たんぱく質」です。一日3回の食事の際に、手のひらに乗る程度の肉・魚・卵・大豆製品・乳製品を特定の食品に偏らないように食べましょう。小食なら間食にたんぱく質を取り入れましょう。

筋肉量の減少は「オーラルフレイル」食べる機能の衰えにも影響します。噛めない、むせる、滑舌が悪くなる、などの状態から十分な食事が摂れなくなり低栄養状態になりかねません。普段から柔らかいものばかりではなく噛むことを意識し、その為に歯のコンディションを整えることも意識してほしいです。

高齢期では、ダイエットよりも現体重を維持することはとても大切なのです。

皆さん、フレイル列車には乗車せず、自分の足で日常を歩いて参りましょう。

摂食嚥下リハビリテーション栄養専門管理栄養士

榊 真理子



### ご質問にお答えします！



**Q** 窓口での支払いに電子マネーやクレジットカードは使えますか？

**A** 電子マネーは対応していませんが、クレジットカード（VISA、JCB、mastercard等）はご利用いただけます。



**Q** 家族が遠くてなかなか行けない場合、洗濯はどうしたらよいですか？

**A** 業者によるクリーニング（1回770円）、もしくはご自身で洗濯が可能であれば病棟の洗濯機・衣類乾燥機が利用できます。

